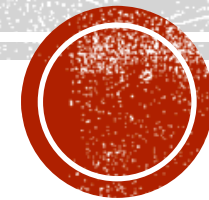


第81回日本心理学会大会公募シンポジウム

2017年9月20日

久留米ビジネスプラザ・グラントホール

集合行動のアルゴリズムを考える：
計算論的な種間比較の可能性



- 集合行動に関する関心が高まっている。政治における民意の急激な変化，正義やモラルへの言及，インターネット上での気分の急速な伝染など，集合行動は近年の社会科学の主要テーマの1つになっている。
- 同時に行動生態学，複雑系科学などの自然科学領域では，ハチやアリなどの社会性昆虫を中心に，採餌や移動，巣選択などでの集合行動について，計算論的な仕組み（アルゴリズム）を明らかにしようという試みが展開されている。
- 本シンポジウムでは，科研費基盤(S)「集合行動の認知・神経・生態学的基盤の解明」に携わる研究者が，ヒト・ハチ・カラスなど，いずれも高い社会性をもつ三種の集合行動に関する実証研究を提示する。アルゴリズムの観点から現象を理解することにより，集合行動に関する計算論的な種間比較の可能性を探る。

★ なお関連WSを9月23日(土)，久留米ビジネスプラザ・アルカディアホールで開催します。関心のある方はお声がけください。



登壇者

Speakers

伊澤栄一（慶應義塾大学文学部）

亀田達也（東京大学人文社会系研究科）

竹澤正哲（北海道大学文学研究科）

Discussant

豊川 航（**University of St. Andrews**・総合研究
大学院大学，学術振興会PD）

